

Total Esthetic Harmony

PROSSIMO



光重合型前装冠用硬質レジン

使用説明書

はじめに

ジーシープロシモは「健康的な白い歯(明るい色調の歯)に治して欲しい」という患者さんの要望に応じて、審美性・築盛操作性と理工学的性質を高いレベルで実現したMFRタイプ前装冠用光重合型硬質レジンです。

審美性の向上にあたっては、インレー/クラウン/前装冠用超硬質レジジン「ジーシーグラディア」の色調を基調とし、ビタパンクラシカルシェード(旧ビタパブルミンバキュームシェード)をピンクオレンジシフトさせた独自のプロシモシェードを採用。口腔内発色に優れた明るい温かみのあるシェード体系を完成しました。また、長年先生方に親しまれてきたビタパンクラシカルシェードを忠実に再現するためにA系統にクラシカルオペーク、クラシカルサービカル、クラシカルデンチンもご用意しております。これらの新しい審美的なアプローチにより臨床に即した幅広い色調選択を行うことが可能となるとともに、口腔内で天然歯にマッチした色調再現が容易に行えます。キャラクタライズ用としても歯頸部の色調表現に効果的なマージンオペーク(MO)や切端部の自然な透明感を表現するインテンシブカラー(IC7:ラベンダー)など内部ステイン材料など特殊色も充実させました。

操作性の面では、各種ペーストの表面性状やちよう度の見直しにより、優れた築盛操作性と付形性を有しております。

今後ますます高い審美性と効率よい操作性が望まれる硬質レジジンシステム、「ジーシープロシモ」は必ずや皆様にご満足いただける製品と確信しております。

特長

- 1.日本人の天然歯の色調を徹底追求した「プロシモシェード」と、世界標準であるビタシェードを忠実に再現する「プロシモクラシカルシェード(A系5色)」を用意。幅広い要望に的確に対応できるようにシェード設計を行いました。
- 2.「プロシモシェード」は、日本人の歯の色調に合わせてピンクオレンジ系にシェードをシフトさせてあるため、口腔内で明るく健康的な色調表現が行えます。
- 3.「プロシモクラシカルシェード」は、簡単な操作でビタシェードを忠実に再現できるように考えられたシェードで、専用のクラシカルオペーク、クラシカルサービカル、クラシカルデンチンがあります。
- 4.デンチンの高い明度設定と、レジン特有のオパール性を抑制することにより、天然歯のような明るさと質感が表現できます。

■仕上がりシェード比較



プロシモシェード(A3)



ビタパンクラシカルシェード(A3)



プロシモクラシカルシェード(A3)



n:プロシモシェード



上段:ビタパンクラシカルシェード A2/A3/A3.5
下段:プロシモクラシカルシェード A2-C/A3-C/A3.5-C

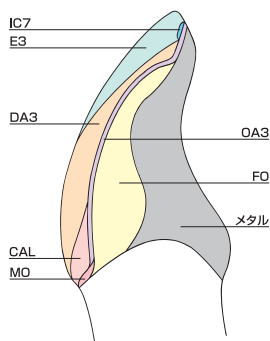
色調構成表

		A1	A2	A3	A3.5	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	C4	D2	D3	D4		
オペーク	ファンデーションオペーク											FO							
	マージンオペーク											MO							
	オペーク	OA1	OA2	OA3	OA3.5	OA4	OB1	OB2	OB3	OB4	OC1	OC2	OC3	OC4	OD2	OD3	OD4		
	クラシカルオペーク	OA1-C	OA2-C	OA3-C	OA3.5-C	OA4-C													
サービカル	サービカル	—	CAL	CAD	—		CBL	CBD	—		CCL	CCD	CDL	CDD					
	クラシカルサービカル	—	CAL-C	CAD-C															
デンチン	デンチン	DA1	DA2	DA3	DA3.5	DA4	DB1	DB2	DB3	DB4	DC1	DC2	DC3	DC4	DD2	DD3	DD4		
	クラシカルデンチン	DA1-C	DA2-C	DA3-C	DA3.5-C	DA4-C													
エナメル	エナメル	E2	E3	E4	E1	E2	E3	E2	E3	E4	E2	E3							
	エナメルインテンシブ	E1																	
キャラクターサイズ色		トランスルーセント			インテンシブカラー														
		T0	T2	T4	IC0	IC1	IC2	IC3	IC4	IC5	IC6	IC7	IC8	IC9	IC10	IC11	IC12	IC13	IC14

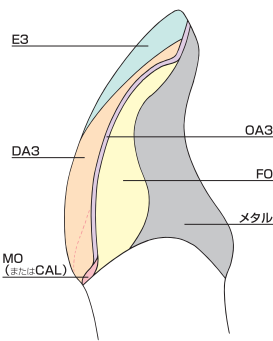
各ペーストの遮蔽性



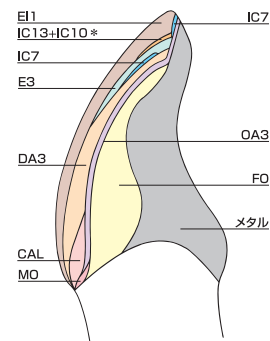
基本築盛(A3)



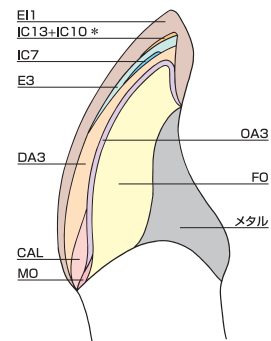
簡便法(A3)



応用例



応用例(先端部メタルパッキングなし)



*: IC13をベースにIC1, IC2, IC3, IC10等を混ぜて使用します。

■ファンデーションオペーク(1色)

メタルフレームのアンダーカット部に確実に流れる流動性と優れた光硬化特性を付与したワンペーストタイプのオペークです。

■マージンオペーク(1色)

ファンデーションオペーク築盛後、マージン部に1mm程度の幅で築盛することにより、歯頸部の色の浮き上がり感を抑える効果果です。また、オペークの色調調整のため、オペークに混ぜて使用することもできます。

■オペーク(16色)/

クラシカルオペーク(A系5色) 歯冠の基本的な色調の表現ならびに金属色の遮蔽を目的とするワンペーストタイプのオペークです。適度な流動性と粘性の設定により、マージン部へ垂れることなく、均一な厚みに容易に塗布できます。

■サービカル(8色)/

クラシカルサービカル(A系2色) 歯頸部・歯根部の色調を表現するために使用します。濃く遮蔽性の高い色調に設定することにより、歯頸部など厚みが取れないケースでも自然感のある深みを表現することができます。

■デンチン(16色)/

クラシカルデンチン(A系5色) スパチュラへのベタツキのない適度なノビとコシの設定により、築盛操作を効率よく行えます。また、付形性に優れており、デリケートな指状構造も思い通りに形成できます。

■インテンシブカラー(15色)

オペーク・デンチン・エナメルの各段階において使用する内部ステイン材です。色調が比較的濃く設定してありますのでクリアーを混ぜて薄く調整したり、また各色を混ぜることにより思い通りの色調調整が行えます。

■エナメル(4色)

オパール性を抑えることにより従来製品にみられる青白っぽさを解消して温かみのある色調・透明感を表現します。

■エナメルインテンシブ(1色)

透明度をトランスルーセントとエナメルの間設定した特殊色です。従来のトランスルーセントと同様に使用することにより、天然歯のような深みのある色調と奥行きのある質感を表現することができます。

■トランスルーセント(3色)

最も透明性の高い口腔内でよく見られる色調です。歯質の自然な透明感を表現する場合に使用します。T0(クリアー)、T2(ホワイト系)、T4(アンバー系)がラインナップされています。

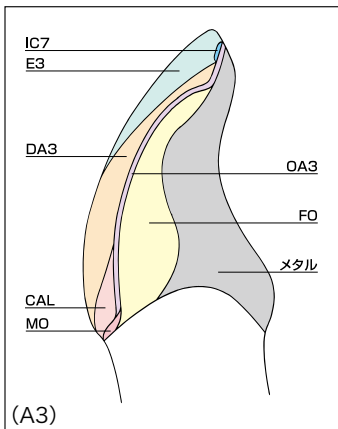
■コンポジットプライマー

追加築盛やリペアーの場合に使用する光重合型接着材です。また、ペースト築盛時にスパチュラの滑りを良くするモデリングリキッドとしても使用できます。

■メタルプライマー II

オペークをメタルフレームに接着させるための金属接着性プライマーです。貴金属・卑金属を問わず優れた接着力を発揮します。

基本築盛



1. 作業模型の製作



通法により作業模型を製作します。
使用製品:ニュージロックファストセット

2. メタルフレームの製作



1 ワックスアップ
模型にジーシーセップ(ワックス分離材)を塗布し、インレーワックスにて歯冠外形を回復します。

臨床のヒント 外形形成したワックスと異なる色調のワックスで支台歯をコーピングしておくとし、窓あけのときに厚さが確認しやすく便利です。

注意点 メタルフレームの厚さは、前歯では0.3mm、臼歯では0.5mm以上確保してください。



2 窓あけ
前装する部分の窓あけを行います。



3 スプルーの植立
通法に従いスプルーを植立します。
臨床のヒント 「5.リテンションビーズII SSSの付与」リテンションビーズの削除例を参照の上、あらかじめビーズを削除する部位に植立しておくとし、効率良く作業が進められます。



4 リテンションビーズアドヒーズブIIの塗布
アドヒーズブIIを薄く一層塗布します。アドヒーズブIIは揮発成分が揮発した後に粘着層が残る様に設計されていますので、必ず乾燥させてから

ビーズを振りかけてください。

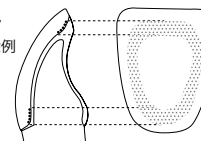
臨床のヒント アドヒーズブIIの筆を必要に応じハサミでカットしますと液を薄く塗布し易くなります。



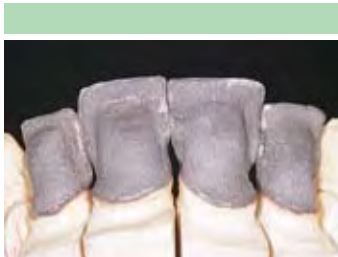
5 リテンションビーズII SSSの付与
リテンションビーズII SSSを築盛層の厚みを考慮し、必要な部分に均一になるように振りかけます。

臨床のヒント ジーシーメタルプライマーIIを併用することにより、ファンデーションオパークはメタルフレームに確実に接着します。このためメタルフレーム全面にリテンションビーズをつける必要がなく、下図のような付与形態で十分な維持力が得られ、レジン層を厚く築盛することが可能となり色調表現が容易になります。

リテンションビーズの削除例
単冠の場合



6 埋没
通法に従いワックスパターンにジーシーシュールミスト(界面活性材)などを塗布後埋没します。
使用製品:クリストクイック20
クリストクイックII



7 鑄造
通法に従い鑄造を行います。
注意点 ビーズの再現不良は鑄造み不足によって生じることが多いためご注意ください。



8 メタルフレームの完成
鑄造後にカーバイドバーなどを用いメタルフレームの前装面の辺縁全周を0.5mm幅でビーズを削除します。特にレジン築盛層の厚みを取りたい部位もリテンションビーズの削除例を参照の上、削除します。

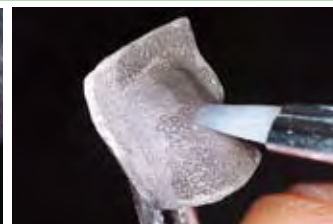
3. メタルフレームの前処理



1 アルミナサンドブラスト処理
50 μ mのアルミナサンドで前装面をブラスト処理します。メタルプライマーIIを使用する前には必ずブラスト処理を行い、新鮮面を出



2 メタルフレームの清掃
アルミナサンドブラスト処理後、エアガンにより接着面を清掃します。清掃後は接着面の汚染を避けるために、直ちにメタルプライマーIIの塗布に移行します。



3 メタルプライマーIIの塗布
メタルプライマーIIを専用の筆で一層(1度ないし2度)薄く塗布します。塗布後は揮発成分が揮発し金属表面は塗布前と同じ状態に見えますがこの状態で十分な接着効果が得られます。

注意点 メタルプライマーII塗布後は、処理面の汚染を防ぐため直ちにファンデーションオパークの塗布に移行します。

注意点 メタルプライマーIIを厚く塗りますとかえって接着力が低下しますので、1度ないし2度で完了してください。

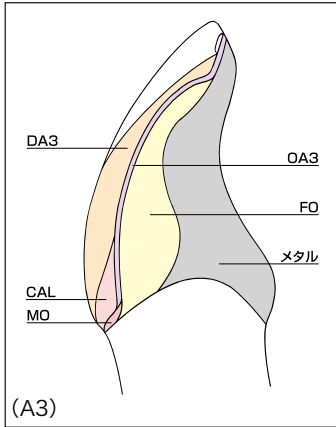
注意点 メタルプライマーIIは揮発性が高いため、使用後は直ちに密栓してください。

表1(オベーク類の光照射時間)

ラボライトLV-III・II	1分
ラボライトLV-I	3分
デンタカラーXS,ユニックスS,αライト,ソリディライト、を用いる場合は、ラボライトLV-IIIと同様です。	

表2(デンチン・エナメル等の光照射時間)

ステップライトSL-I	10秒
コピー	20秒
ラボライトLV-III・II	30秒
ラボライトLV-I	1分



4. ファンデーションオベークの塗布



付属の平筆で、ファンデーションオベークをメタルフレームの辺縁を除いたアンダーカット部に擦り込むように塗布し、予備重合(光照射)を行います。ファンデーションオベークの1回の塗布厚さは約100μmで、ほぼリテン



ションピースII SSSの頭の高さになります。

光照射時間はラボライトLV-IIIで1分間です。(表1参照)



注意点 ファンデーションオベークなどオベーク類の予備重合は、ラボライトLV-IIIを用い、行います。光の透過性が低いオベーク類の場合は、ジーシーステップライトSL-Iは使用できません。

臨床のヒント ファンデーションオベーク・オベーク類の採取時にペーストが少し硬い場合には、筆でかきまわすなど動きを与えますと直ぐに流動性を回復します。

臨床のヒント ファンデーションオベークを用いず、直接オベークを築盛する場合には、1回の厚さが50μmを超えないように塗布します。

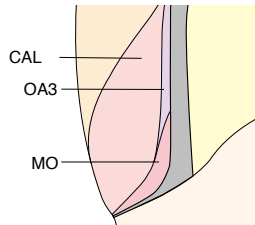
5. マージンオベークの塗布・予備重合



歯頸部特有の深みのある色調を表現するために、マージン部に付属の丸筆を用い約1mm幅でマージンオベークを塗布し、予備重合を行います。

光照射時間はラボライトLV-IIIで1分間です。(表1参照)

6. オベークの塗布・予備重合



平筆を用い、オベークを全面に薄く延ばすように塗布し、予備重合を行います。一度に厚く塗りますと未重合になることがありますので2回に分けて塗布します。



オベーク1回目の状態です。

光照射時間はラボライトLV-IIIで1分間です。(表1参照)



オベーク2回目の状態です。

光照射時間はラボライトLV-IIIで1分間です。(表1参照)

7. サービカルの塗布・予備重合



の各色調(L(ライト)D(ダーク)が設定されていますのでP2の色調構成表を参照の上色調をご選択ください。

歯頸部にさらに深みを表現したい場合にサービカルを歯頸部から約2~3mm移行的に築盛し、予備重合を行います。サービカルはA色・B色・C色・D色

光照射時間はラボライトLV-IIIで30秒間です。(表2参照)

8. デンチンの築盛・予備重合



シリンジより適量のペーストをスパチュラで採取し、歯冠形態を考慮し、気泡が混入しないように築盛し、予備重合を行います。

光照射時間はラボライトLV-IIIで30秒間です。(表2参照)

指状構造(マメロン)は、エナメルのスペースを考慮しながら歯冠中央から切端にかけ薄くなるように形成します。

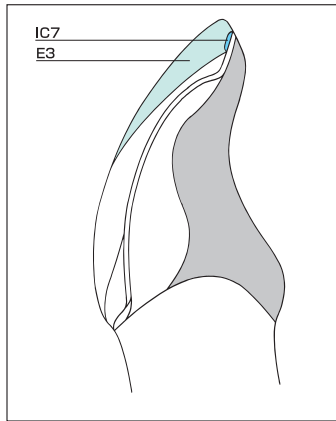
デンチン築盛完了時の隣接面観
歯冠1/3付近から切縁の領域にエナメルの築盛スペースを確保します。

表2(デンチン・エナメル等の照射時間)

ステップライトSL-I	10秒
コービー	20秒
ラボライトLV-III・II	30秒
ラボライトLV-I	1分

表3(最終重合時間)

ラボライトLV-III・II	3分
デンタカラーXS, コニックスS, αライト, ソリディライト、 を用いる場合は、ラボライトLV-IIIと同様です。	
ラボライトLV-I	5分



9. インテンシブカラー(IC7)の塗布・予備重合



切端部の透明感を付与するため、マメロン構造を考慮しながらインテンシブカラー(IC7)を塗布し、予備重合を行います。

照射時間はラボライトLV-IIIで30秒間です。(表2参照)



臨床のヒント 切端部の透明感を付与する別の方法として「7. サ-ビカルの築盛・予備重合」の段階で点線部分にインテンシブカラー(IC7)を塗布する方法もあります。

10. エナメルの築盛・予備重合



歯冠形態を考慮しながら、切端から移行的にエナメルを築盛し、予備重合(または最終重合)を行います。

照射時間はラボライトLV-IIIで30秒間です。(表2参照)



臨床のヒント さらに深みのある色調を表現したい場合には、エナメルインテンシブ(EI1)を切端から移行的に築盛します。

11. 最終重合



エナメル(またはエナメルインテンシブなど)を築盛後に最終重合を行います。

照射時間はラボライトLV-IIIで3分間です。(表3参照)

12. 形態修正・研磨



1 形態修正
カーバイドバー・ダイヤモンドポイント・カーボランダムポイント等を用い、唇側面溝や豊隆部など解剖学的歯冠形態に形成します。



2 表面性状の付与
ダイヤモンドポイントまたはカーボランダムポイントにより表面性状の付与を行います。



3 最終バフ研磨
通法に従いペーパーコーンやシリコーンポイントを用い表面性状を滑らかにした後、フェルトポイントまたは皮バフに研磨材をつけ、艶出し研磨を行います。



完成



追加築盛および口腔内リペアー



①カーバイドバーを用い、新鮮面を出します。



②ジーシーコンポジットプライマーを被着面に一層薄く塗布します。



③塗布したコンポジットプライマーを照射します。

照射時間は、各機種により以下の通りです。
●ラボライトLV-III・II 1分
●ラボライトLV-I 3分
●コービー 20秒



④エナメルトランスルーセント等のペーストを追加築盛します。



⑤追加築盛後最終重合として照射します。
臨床のヒント 追加築盛が広範囲または多数歯になる場合は、ラボライトLV-IIIにて照射を行ってください。口腔内リペアーの場合などガンタイプの照射器を用いる場合には、規定の照射時間より長く照射してください。

照射時間はラボライトLV-IIIで3分間です。(表3参照)



⑥完成

Q1 アルミナサンドブラスト処理をしたメタルフレーム面を指で触れてしまったのですがメタルプライマーⅡの接着性に影響がありますか？
A1 脂分をはじめ被着面の異物による汚染は接着性に大敵です。汚染の心配がある場合は、再度アルミナサンドブラスト処理を行なってください。

Q2 アルミナサンドブラスト処理をした後に超音波洗浄やスチームクリーナーにより清掃した方がよいと思うのですが？
A3 超音波洗浄やスチームクリーナーは、その洗浄水の中に脂分や汚染物質の残存が考えられるためお勧めできません。エアーガンによりアルミナサンドを吹き飛ばす程度で十分な洗浄効果がありますので、それ以上の清掃処理の必要はありません。

Q3 オペークをシリンジから採取したときに少し硬くなった気がするのですが？
A3 チキソトロピー効果によるもので品質には問題ありません。ディスボパレットに採取した後、筆でペーストをかき回すなど動きを与えやすくとすぐに流動性を回復します。
※チキソトロピー効果とは「外力が加わると柔らかくなり、外力がなくなるとその形状を保とうとする性質」です。プロシモでは、オペークを築盛したときにフレームの凹面部へ必要以上に垂れていかないように、この効果を強めに設計してあります。

Q4 オペークの流れを良くする方法や希釈材はありませんか？
A4 ありません。コンボジットプライマーやインテンシブカラーはオペークの希釈材には使用できませんのでご注意ください。

Q5 ファンデーションオペークを使用せずに、通常のオペークだけでオペーク操作を行うことはできますか？
A5 通常色オペークも硬化深度を確保してあるため可能ですが、リテンションピースのアンダーカット部の重合を確実にするためファンデーションオペークとの併用をお勧めします。通常オペークのみでオペーク操作を行う場合、アンダーカット部の重合を得るために極めて薄く塗布し、4回以上の塗布及び重合操作を行って下さい。

Q6 リテンションピースⅡSSサイズを使用していますが、ファンデーションオペーク1回でピースの頭が隠れるまで築盛しても大丈夫ですか？
A6 ファンデーションオペークの硬化深度は250μmあり、SSサイズ(100μm)のピースを使った場合のアンダーカット約50μmを1回で十分に重合できます。しかしながら、これがSSタイプ(200μm)になるとアンダーカット部は約100μmにも達しますので、ペースト内の反射光では未重合部分を残す可能性があります。このため、SSサイズ使用時は、まずアンダーカット部分の高さ(ピース径の約1/2)まで、ファンデーションオペークを塗布して一度重合した後、その上に通常色オペークを2回ないし3回塗布するようにしてください。アンダーカット部の確実な重合と作業の効率化を図るために、リテンションピースⅡSSの併用をお勧めします。

Q7 オペークが硬化しないのですが？
A7 築盛層が厚く、未重合になっていることが考えられます。P4に記述している築盛量をご参考の上、なるべく薄く2回に分けて築盛するようにしてください。

Q8 オペークを塗布する筆やディスボパレットの洗浄方法はどのようなのですか？
A8 エタノールで洗浄してください。なお洗浄後に再使用する際はエタノールの乾燥を良く確認してから使用してください。

Q9 ブリッジ製作の際、重合時にクラックが入るのですが、何か良い方法はありますか？
A9 レジンの重合収縮の影響で、1度に多量に盛った場合などにクラックが入ることがあります。この重合収縮を1歯ずつに分散させる意味で、デンチン及びエナメル築盛時にスパチュラで連結部に切れ目を入れたり、1回の築盛量を少なくして2～3回に分けて築盛しますと、クラックを防止することができます。

Q10 築盛時に気泡を埋入してしまうのですが、どんなことに注意すればいいのでしょうか？

A10 シリンジからペーストを採取する前に、ペーストの先をスパチュラで軽くたたくようにして気泡の原因になるペースト表面の凹凸をならしてから採取。築盛すると気泡を巻き込むのを防ぐことができます。また、使用するスパチュラの先端にレジン等が付着してガサガサになっていると、採取時にペーストの表面がささくれ立ち気泡を巻き込む原因となりますので注意してください。なお、コンボジットプライマーを築盛面に薄く塗ることでペーストのなじみを良くすることも有効です。その際は、コンボジットプライマー塗布後に1分間光重合を行ってから次のペーストの築盛に移ります。

Q11 ブリッジのポンティックの空洞部には何を築盛すれば良いのですか？
A11 プロシモは重合特性に優れているため、エナメル・トランスルーセント系の中から選んでご使用ください。空洞部をトランスルーセント等で隣するフレーム面とほぼ同じ程度のカントゥアーに回復した後、オペークから築盛作業を行ないます。なお、重合深度についてはP6を参照して、使用部位に適していることを確認してください。

Q12 光照射器は何を使用しても良いのですか？
A12 本取扱説明書の中でも記載している機種(ラポライトLV-Ⅱ・Ⅲ(Ⅰ)ステップライト、デタカラーXS、ユニックス、ソリディアイト、αライト)については、物性等を確認しておりますので、所定の光照射時間でご使用いただけます。なお、可視光線照射器でありながら紫外領域の光を照射している機種や紫外線照射器はご使用できませんのでご注意ください。また、光照射器のランプが汚れていたり耐用時間を超えていますと本来の照射能力を発揮できていないことがありますので、定期的なメンテナンスを行なってください。
※紫外領域の光はレジンの表層を過剰硬化させて次のレジンと接着するために必要なモノマーが残らないためにレジンとレジンの界面で剥がれることがあります。また、表層は硬化するものの中まで重合できないことも紫外領域の光の影響として挙げられます。

Q13 コンボジットプライマーは他社の硬質レジンにも使用できますか？
A13 MFRタイプの硬質レジンに使用可能です。また、ジーシーデュラデントのような硬質レジン歯にプロシモのエナメルなどを追加築盛することも可能です。

Q14 筆を使用する場合がありますが、それぞれ洗浄方法はどのようにすればよいでしょうか？
A14 メタルプライマーⅡ、オペーク使用の筆は、各使用後充分にエタノールにて洗浄してください。

Q15 操作中にペーストが硬化しはじめてしまいますが？
A15 窓際の明るいところでは光が強いため硬化が始まる場合があります。ブラインドを降ろすか、窓から離れて作業をしてください。また、理工学的性能を高めるために光に対して反応性が高く設定されてありますので、技工用ライトから30cm以上は離れた場所で作業を行ってください。特にトランス系の透明色は硬化が早く、技工用ライト直下10000ルクスでは、1分30秒で硬化しはじめます。

Q16 適応症例でない場合をお教え下さい。
A16 不正咬合、咬合悪習癖(クレンチング、ブラキシズム)を伴う症例には使用しないでください。咬合コンタクトポイントがフィニッシングラインにくる場合にはメタルで接触させてください。

Q17 保管方法はどのようにするのですか？
A17 基本的には、常温で直射日光を避けられる場所であれば問題ありません。長期保存する場合は、冷暗所にて保管してください。ただし、冷蔵庫で保管しますと、ペーストが硬くなりますので、常温で30分以上放置してからご使用ください。

1. メタクリレート系モノマーに対して発疹、皮膚炎などの過敏症のある患者には使用しないこと。
2. 本材の使用により発疹などの過敏症状を起こした術者は、使用を中止し、すぐに医師の診断を受けること。
3. 本材に対して発疹、皮膚炎などの過敏症の既往歴のある術者は本材を使用しないこと。また使用より過敏症を起こしたときには、使用を中止し、すぐに医師の診断をうけること。
4. 本材は、口腔軟組織や皮膚に付着させたり目に入らないように注意すること。付着した時はすぐに多量の水で洗浄すること。万一目に入ったときは、すぐに多量の流水で洗浄し、眼科医の診断を受けさせること。
5. メタルプライマーⅡ、コンボジットプライマーの誤飲には十分に注意すること。
6. 本材の液状のものは可燃性ですので火気の近くで使用したり火気の近くに置かないこと。
7. 本材は他の製品と混用しないこと。
8. 本材の重合の際は所定の光照射時間を遵守すること。また紫外線照射器や可視光線照射器で紫外領域の光も照射している光照射器は使用しないこと。
9. 光照射器が点灯の際は、光を直視しないこと。
10. 本材は開封前は冷蔵庫に保管すること。開封後は直射日光を避け、室温または冷蔵庫で保管すること。なお、冷蔵庫で保管した場合は室温に戻して使用すること。
11. 本材は採取後速やかに使用し、容器はすぐに密栓すること。特に液状のものは、揮発性が高いので注意すること。
12. 形態修正や研磨の際には、粉塵による人体への影響を避けるため、集塵装置や防塵マスクを使用し、粉塵を吸入しないように注意すること。
13. 本材に添付する筆は本材専用として使用すること。
14. 本材は歯科の従事者以外が触れないように適切に保管・管理すること。
15. 本材は、使用説明書に記載の用途以外には使用しないこと。

その他の注意事項

1. 冷暗所に保管し、2年以内に使用してください。
2. 光重合器は定期的な清掃及びランプの交換などのメンテナンスを行ってください。
3. ファンデーションオペーク、マージンオペーク、オペーク、インテンシブカラー、クラシカルオペーク他各種液状ペーストを採取後は必ずシリンジノズルのまわりに付着した余剰ペーストを除去した後に、キャップをしてください。
4. メタルプライマーⅡ専用の筆は、他の用途には使用しないでください。



発売元
株式会社 ジーシー
東京都板橋区蓮沼町76番1号

製造元
株式会社 ジーシーデンタルプロダクツ
愛知県春日井市鳥居松町2丁目285番地
ジーシー プロシモ 医療用具承認番号